

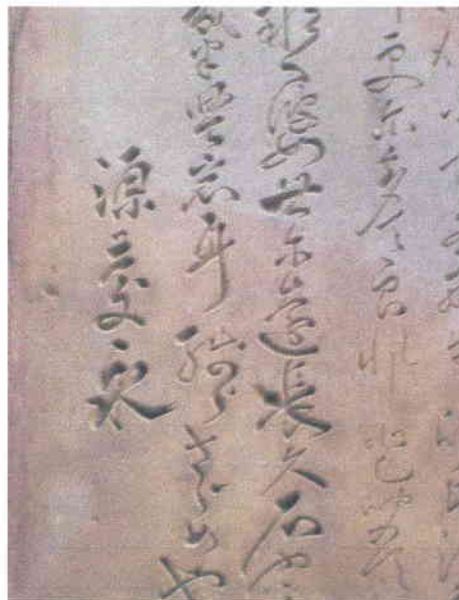
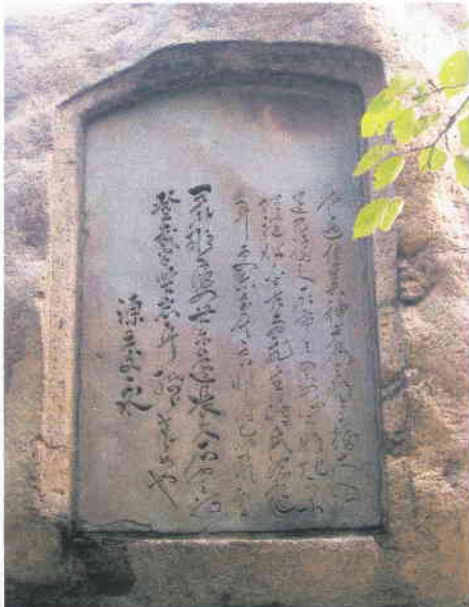
- ▶ 昨年イベントで、中央区波止場町1(みなと公園)にあるレリーフを紹介しましたが、諏訪山公園にあるのは、勝海舟が自ら筆を取り、操練所の成り立ちについて作らせた本物の「海軍營の碑」です。海舟は自ら筆を取り、操練所の成り立ちについて克明に書き記しています。元治元年(1864)10月8日、勝海舟は海軍操練所がある小野浜に記念碑を建立しようとしたが、目的は達せられず、海舟の寓居先であった生島家が保存する事となりました。大正4年(1915)に寄贈され、神戸市中央区諏訪山町1にある諏訪山公園金星台の地に建てられました。近年、損傷が激しく、昨年リニューアルされました。



リニューアル後の海軍營之碑

裏面にある松平春嶽の歌

そのかみ神戸のみなとに勝大人の建られし石ふみのあるかなきに埋れしを
こたび生島氏の庭に更にとてられしと聞てよめる。
君なくは世に遠長く石ふみのときは堅岩に残らさらめや 源慶永



53 金星観測記念碑／諏訪山公園

神戸市中央区諏訪山町1

- ▶ 金星観測記念碑は、明治7年(1874)12月、ジャンセン率いるフランスの観測隊がこの場所で金星を観測したことを記念して建てられたものです。金星は地球の内側を回っているため、ごくまれに太陽面を金星が通過する様子を観測することができます。当時も貴重な機会だと、世界各地で観測が行われ、神戸の諏訪山もその一つに選ばれました。



54 水島鍊也終焉の地

神戸市中央区熊内町5-1-3

- ▶ 元治元年(1864)、豊前中津藩士の長男として生まれます。明治35年(1902)、高等商業学校(後の東京高等商業学校、現一橋大学)に続く2番目の官立高等商業学校として、神戸高等商業学校が設立されました。初代校長に就任した水島鍊也は、実務を重視する観点から商業学校からの入学を認めるなど独自の入試制度や教育課程を整備し、東京高等商業学校との違いを際立たせました。現在の神戸大学はこの設立をもって開学の起点としています。生誕地跡である大分県中津市金谷本町(かなやほんまち)に「水島公園」とし記念碑が建てられており、神戸大学キャンパスには、水島鍊也の銅像が建てられています。



55 モHANDAS・カラムチャンド・ガンジー像 神戸市中央区熊内町5-1-3

- ▶ インド独立運動の指導者。イギリスの植民地であったインドの独立に力を尽くしました。無抵抗主義を唱え、断食などをしてインド人を励ました。昭和23年(1948)、ヒンズー至上主義者によって暗殺されました。



56 長州藩兵庫警備陣営跡/海蔵寺

神戸市灘区国玉通3丁目6-3

- ▶ 安政5年(1858)6月、長州藩は幕府からの信頼が厚く、天領(幕府直轄領)である兵庫の警備を命じられました。具体的には武庫川の西から須磨までで、3000人の兵力が動員されました。本陣を芦屋の打出に置き、各所に駐屯所を配置しました。
文久3年(1863)3月には、海蔵寺および寺と隣接している河内国魂神社境内に陣屋を作りました。1200名が配備され、付近の民家に分かれて分宿したそうです。
訓練も行われ、洋式を用い楽隊入りだったと長州藩の記録に残っています。
文久3年6月には、自ら願い出て国元へ撤退します。
禁門の変の後は津山藩、尼崎藩が警備にあたったそうですが、まもなく警備は解かれました。



57 徳川道

神戸市灘区篠原北町4-6

- ▶ 慶応3年12月7日(1868年1月1日)、兵庫開港されるにあたり、幕府は兵庫および神戸を縦断している西国街道で生麦事件のような外国人と大名のトラブルを避けるため、突貫工事で作られたバイパス(当時は徳川道とは言わず西国往還付替道と命名)を作ることになりました。慶応3年12月7日(1868年1月1日)完成しましたが、1ヶ月も立たずに勃発した鳥羽伏見の戦いが始まり、徳川道の完成は公表されることはありませんでした。
明治新政府で居留地を迂回する新道が造成され、幻の西国街道のバイパス(徳川道)は歴史の舞台から消えました。
公表されなかったため、神戸事件(外国人と備前藩との衝突)が起り、幕府の心配事が的中したのです。



神戸史跡探訪コースVol.2 実施にあたって

2005年3月27日(日)に実施しました、「神戸史跡探訪Vol.1」の続編として、今回実施することになりました。

昨年は「大坂史跡探訪」並みにたくさんの距離を歩くコースでした。

今年はそれ以上に歩かねばならず、車を使ってのイベントにすることとしました。

そうすると、尼崎や西宮などの史跡も紹介することが可能となり、史跡案内数が、昨年の案内予定数とほぼ同じとなりました。

今回もガイドブックに載っていない史跡を少しでも多く紹介することを目標に準備を進めました。

今年は昨年以上に、たくさんの方にお世話になりました。

この場をお借りいたしましてご芳名を挙げるとともに、感謝申し上げたいと存じます。

- ・資料の提供と六英堂の情報提供にご協力くださいました 大阪龍馬会会員の白濱さん
- ・東郷井など情報提供にご協力くださいました元大阪龍馬会会員の三輪さん
- ・伊藤博文に関する情報をご提供くださいました 神戸の篠崎様
- ・伊藤博文寓居跡(吟松亭)についてご協力くださいました 花隈料亭 成駒家の濱野様
※資料だけでなく伊藤博文が写っている貴重な生写真までいただきました
- ・勝 海舟寓居跡をはじめ平野の歴史についてご教授くださり、またイベントでもご案内いただくことになりました 郷土史家の前田先生
- ・西宮神社、湊川神社、祇園神社のみなさま
- ・いつもながらテキストの印刷、そして今回は車の手配とお世話になりました 大阪龍馬会事務局長の林さん

どうもありがとうございました。



花隈料亭 成駒家の濱野様からいただいた生写真
→前列右端が伊藤博文、中央左が大正天皇(当時は皇太子)、その右横が朝鮮の皇太子